

平成22年度日本農学会シンポジウム

「農林水産業を支える生物多様性の評価と課題」

- 日 時：平成22年10月9日（土）午前10時より（午前9時30分開場）
- 会 場：東京大学弥生講堂（地下鉄 南北線「東大前」駅下車徒歩1分、千代田線「根津」駅下車徒歩8分）
- 主な対象：学生・院生、若手研究者（一般公開）
- 参加費：無料
- 講演要旨：別売
- 内 容：

本年2010年は国連の定める国際生物多様性年であり、また、生物多様性条約第10回締約国会議（COP10）の日本での開催が予定されている。農林水産業は、生物に備わる生産力を利用することで人類がその恩恵を享受しつづけようとする産業であり、その根幹を支える生物資源の多様性の確保は、安定的で持続的な農林水産業の展開にとって最も基礎的かつ重要な課題である。

本シンポジウムは、農林水産業を支える生物多様性の現状を評価し、将来に向けた課題を整理することを目的とする。まず、農林水産業と生物多様性の関わりについて考え方を整理した後、国内外の在来作物品種や園芸品種、近縁野生種の遺伝的多様性が失われつつある現状を概観する。次いで、農林水産業を支える生物多様性の利用と評価に関する現状と課題を、作物生産、森林資源、水産資源、農耕地土壌のそれぞれについて整理する。さらに、多様な生物の生息する農村空間の保全と再生というマクロな視点から、生物生息空間の再生、農村ランドスケープ、生態系サービスの経済的評価について検討する。

■講演題目：

第1部 農林水産業における生物多様性

- 10:10 生物多様性条約と SATOYAMA イニシアティブ（東京大学 武内和彦）
- 10:45 農山漁村の生物多様性の診断と管理（愛媛大学 日鷹一雅）

第2部 農林水産業を支える生物多様性の利用と評価

- 11:20 作物生産における生物多様性の利用（北海道農業研究センター 辻博之）
- 13:00 森林の遺伝的多様性保全と森林管理（森林総合研究所 津村義彦）
- 13:35 栽培漁業の遺伝的影響評価と多様性管理（東京海洋大学 北田 修一）
- 14:10 農耕地土壌における微生物多様性の評価手法とその利用（東京農工大学 豊田剛己）

第3部 生き物のにぎわう農村空間の保全と再生

- 15:00 水田地帯の魚類生態系保全と地域の活性化（秋田県立大学 端憲二）
- 15:35 複合生態系としての農村ランドスケープと生物多様性（農業環境技術研究所 山本勝利）
- 16:10 生物多様性と生態系サービスの経済的評価（長崎大学 吉田謙太郎）

16:55～ 総合討論